

# 発酵鶏糞の使い方

## < 発酵鶏糞の特徴 >

木の花農園の自然卵養鶏場でとった鶏糞です。当農園では、鶏に対し一切薬品は使用していませんので、安心してお使いいただけます。有効微生物菌を鶏の餌や水に混ぜており、平飼いなのでそれを常に鶏が攪拌している状態なので、生の鶏糞とはちがい発酵したものです。それをしばらく積んでさらに発酵させたものなので、**土と混ぜたとき分解が早い**のが特徴です。

また、有効微生物がたくさん含まれていますので、田畑の微生物層を豊かにします。

## < 使い方 >

- ・ 適量を全面にふり、耕起します。**施肥量は下記の表を参照してください。**下記の施肥量は、標準的なもので、季節により、作物により、また畑の特性により異なります。
- ・ 種まきや苗の定植の少なくとも1ヶ月前には施肥をして下さい。(出来れば3ヶ月前までに施肥を済ませると理想的です。)特に寒い時期は、長い期間おく必要がありますので、出来るだけ早く施肥を済ませてください。
- ・ 追肥として利用するときは、株から離れたところに浅い溝を作って鶏糞をまき、上に薄く土をかけます。株から離れたところに穴を開けて、待ち肥として利用する方法も良いでしょう。ポカシと比べると速効性があります。
- ・ 温床を作るときに鶏糞を使うと良いです。落葉をある程度の厚さに積み、そこに鶏糞と米ぬかをまき、水をまきながら、適度なかたさに踏んでいきます。それを何層か繰り返して積んでいきます。1週間から10日で発熱し始めます。うまく発熱させるためにはコツがありますので、詳しくはお問い合わせください。温床として利用した後、それを戸外に積み、2年ほどおくと、良質の育苗土になります。

## 施肥量 ( 施す肥料の量 )

	m <sup>2</sup> 当たり	坪当たり	反当り
鶏糞	500g ~ 1kg/m <sup>2</sup>	1.6 ~ 3.3kg/坪	500kg ~ 1t/反

< 参照 > 1 m<sup>2</sup> = 1 m × 1 m

1 坪 = 1.8 m × 1.8 m

1 畝 = 10 m × 10 m = 100 m<sup>2</sup> = 1 a

1 反 = 10 m × 100 m = 1000 m<sup>2</sup> = 10 a = 300 坪

\* 施肥量が少なめで良いもの ( サツマイモ、ねぎ、トマト、カボチャ、枝豆、大豆、そばなど )

\* 肥料が多めにいるもの ( なす、トウモロコシなど )

**注意** これはごく一般的に言えることで、田畑の特徴、前作に何を作ったかなどの様々な条件によって、施肥量が異なってきますので、詳しいことはお問い合わせください。

### < 注意事項 >

- ・ 定植または種まき直前に無理に混ぜ込むと、発酵して発熱したり、発酵によるガスが発生することにより、根の障害になったり、害虫の原因にもなりますので注意してください。どうしても前もって施肥ができなかった場合は、苗を定植した後から、畝間にうえから鶏糞をまいてください。雨などで自然にしみこんでいきます。また追肥の要領で、株から離れたところに溝や穴を掘って鶏糞をまき、土をかけておいても良いでしょう。
- ・ 開封後はひもで縛るなどして密封し、なるべく日が当たらず、温度が一定の場所で保存してください。

**価格**

**鶏糞**

1 5 k g

¥ 3 1 5 ( 税込み )